

難民の人たちに服の力を！

校長 松本 雅史

さて、皆さんもニュースでご存じのとおり、今世界では、悲しい争いがいたるところで起こっています。イスラエルのガザという地域では、この争いで亡くなった方が7万人を超えたと報道されています。亡くなった子供も1万人以上と伝えられています。八小の児童数が756人です。小平市の全小学生が9913人（R8.5.1現在）ですから、この戦争で、亡くなってしまったこどもの数は、小平市のすべてのこどもの数より多いということになります。



そして、住む家を奪われ、町から逃げなければならなくなった人の数は、150万人を超えたとされています。これは、小平市に住む人の7倍を優に超える数です。住む家をなくした人々は、逃げた先で、どう生活していけばいいのでしょうか。家も水も食べ物もトイレもどうしたらいいのでしょうか。

このように、争いで住む場所を奪われ、命からがら逃げてきた人たちのことを「難民」と呼びます。現在、世界中に難民は、1億1000万人といます。難民が1億人を超えたのはここ数年のことです。15年前までは、5000万人もいなかったのです。これだけ平和が大切だ、地球を守ろうと世界中の人たちが力を合わせようとしているのに、この15年で難民の人は倍になってしまっているのです。そして、この難民の半分近くがこどもです。皆さんと同じこどもです。そのこどもたちの中には、親を失ったり、離ればなれに

なったりしている子も少なくないのです。

最近、涼しくなりました。今日はどの服にしようかな、去年の服はちょっと小さくなっちゃったな、新しい服を買ってもらいたいなという人も少なくないでしょう。少し大人っぽい服でおしゃれしてみたいなと、お店のショーウィンドウを見て楽しんだり、ファッション雑誌や、SNSなどでファッション記事を見て胸をときめかせたりする、高学年の皆さんには、そういう興味も出てきたのではないのでしょうか。私たちは、服を選んで着ています。服はただ着る物というだけでなく、着る人の気持ちを笑顔にする力があります。しかし、難民の人たちには、服を楽しむという余裕はありません。その日でいっぱい、いっぱいの苦しい日を送っています。その難民の皆にも服を楽しむ服の力を届けようという取組を、早稲田実業学校高等部の皆さんの呼びかけで5年生が始めます。5年生は、もう着なくなった服を集める活動を行います。この集めた服は、ユニクロを通じて世界の難民の人たちに送られます。



衣替えの時期です。冬物の服を出すときに去年のこの服はもう着ないなという服はありませんでしたか。夏服をしまうときに、今年着たこの服は、来年はもう着ないだろうなという服はありませんか。もうたぶん着ないだろうけれど、まだ十分着れるんだよなという服があったら、ぜひ5年生が服を集めていますので、渡してください。一人でも多くの難民の人に、着る人を笑顔にする「服の力」を届けましょう。

今朝は、服の力で難民の人たちに笑顔を届けようという5年生の活動を紹介しました。みんなの真心と行動で、世界に平和の輪を広げていきたいと思いますというお話でした。5年生の皆さん、最後まで頑張ってください！